

考えています。

ボーリング調査の過程ですが、当初の設計段階で、大仙寺から南へ木曾川までのルートのほか、いろいろなルートの検討と既設の排水路の調査をし、断面の検討等を行った結果、推進工法による大仙寺から南へ木曾川までのルートが最適であるとの説明会を平成26年12月に行いました。地下水の水量・水質等に變化があった場合、問題が非常に大きいので、八百津公民館から西の荒川橋方向へ流したらどうか、また既設の排水路の断面を大きくしてはどうか等のご意見をいただきました、次のようにご説明させていただきました。

まず、荒川橋方面へ流してはどうかとのご質問には、流末が荒川橋の橋台付近となり、橋台が洗掘される恐れがある。また橋台付近を避けようとするには、民家の地下を掘削しなくてはならないため困難である。国道418号から木曾川までの地域の浸水は解消されないため、別の排水計画の検討が必要となる。

既設の排水路の断面を大きくしてはどうかとのご質問に対しては、現在道路には上水・下水管が埋設されており、断面を大きくすると移設が必要となり、特に下水管は自然流下のため移設が困難であり、排水路が民家と民家の間に設置されている所もあり、断面を大きくするスペ

ースがない所もあるので困難ではないかという説明をし、現在の計画に至ったとの理解を求めましたが、了承していただけませんでした。このような経過から、平成27年度に工事着手する予定でしたが、施工ルートの検討、断面の検討、地盤の地質・岩盤の深さ・管の埋設深・縦抗の位置等を再検討するため、地下水の調査とボーリング調査を行う予定です。その後、調査結果をもとに、地域住民の方にご理解いただけるよう説明させていただきます。と考えています。

八百津排水路は、広域的に排水路を拡張する等の方法では、色々と問題があるとの理解でいいのか。

問 (山田建設課長) 町で考えている計画は、大仙寺から木曾川までの推進工法を

考えていますが、今年度再調査を行い、その後検討をし、説明させていただきますと考えています。

問 今年度、いろいろな調査を進められるということですが、調査の結果によって、最悪

その計画に大きな問題点が出た場合にはどのように対応されるのか。

答 (山田建設課長) 今年度調査を行い、地域の方には再度説明をさせていただきます

したいと思います。議員のいわれる最悪な問題点

ということについては、よくわかりませんが、調査により水質・水量等を考慮いたしました。大仙寺から木曾川までのルート及び推進工法がいいのか悪いのか再度検討を行いたいと考えています。

問 最悪という意味については、大仙寺から木曾川までの排水路の計画は、一番ベストであるという考えで計画を進められていると理解をしていますが、

水質・水位が変わるといって可能性がでた場合ということで、調査結果の報告を受けないとわからないところではあります。その様な問題点が出た場合について、どのように考えているのか伺いたい。

答 (山田建設課長) ボーリング調査では、岩盤

やレキ混り土の位置や地質、水量・水質等については、井戸での調査となります。

問題が発生する場合は、工事施工中に水位等が下がってきたというような場合が、考えられます。今の段階で水位が下がったら、どの様に対応するかをお答えすることは出来ません。仮に工事施工中に水位が下がってきたということが発生した場合には、1〜2年状況を調査させていただきます対処していきたいと考えています。

加藤良治 議員

Q1 「市民活動」の支援・育成について

市民活動の支援策は

問 現在、地域創生ということ

で日本中が我先にと企画会議などに取り組まれています。地域創生を考える際、国がガイドラインで示された内容を私なりに解釈すると、より良い地域社会をつくるために、自分たちの地域を自分たちの手によって自発的・自主的な取り組みを国が支援していくという形であり

ます。まさしく、これは「市民活動」の手法を用いたものであり、活動分野は、多種多様な分野・局面に広がっています。

そこで、個々の分野で活躍している「市民活動」を行政としていかにサポートしていくのか、次の三項目について町執行部の考えを伺う。

一、現在、各課に属している、又は、所管している住民組織の基本的な育成の考え方について。

二、「市民活動」に役場職員が立場を離れ、個人の立場での参加促進について。

三、活動推進機関や各課横断的にコーディネートを図る人材育成・支援していくことの必

要性について。

答 (額部参事)

議員ご指摘のとおり、いわゆる「市民活動」、「住民活動」といわれる活動や取り組みは、地域づくりや町の将来を考える上では、極めて重要な役割を占めるものであると同時に、その活動の活性化が重要であると認識しております。

一つ目のご質問の、各課に属している住民組織とその育成の考え方ではありますが、例えば「自治会」「地域スポーツ振興団体」「交通安全対策協議会」「青少年育成町民会議」「文化協会」や「老人クラブ」などが考えられます。その目的と活動の必要性をしっかりと説明し、組織活動の必要性を理解いただくことが重要であると考えており、あらゆる機会を通じ啓蒙と啓発に努めてまいりたいと思います。

次に二つ目のご質問の、町職員が立場を離れ、個人の立場で活動に参加することを促進することについてであります。各自治会活動をはじめ、各種団体の事務局や各地区の夢おこし事業への協力参加、各地区の祭典への参加、地域の環境保全活動など、多くの職員が参加をさせていただいております。今後も積極的に参加するよう促すとともに、リーダーシップが発揮できるよう願っております。